



秋田牧場のイノシシ

重盤岩下の天満宮に二株のナギがある。津奈木ではチカラシバと呼ばれる。マキ科マキ属の針葉樹で我が国には二種と一変種があり、一つはイヌマキであり一つはナギで、変種はラカンマキである。北限は山口県小郡で、奈良県春日山のナギ林は有名であるが、南方から移植されたものが野生化したと言われている。

紀伊の熊野神社には源義経の手植と言えらるるナギの大木があって、樹齢約八百年と推定され国の天然記念物に指定されている。これには及ばないが津奈木のナギは目の通り周囲二、三十センチで、県内で最大ではないかと思ってい

下から覗くと空が見えるのはナギが植えられているのは元々熊野信仰がいつの時代か時代天満宮に変わったのではな

ソテツは樹齢約千年で見事なものである。熊本の立田山にあるシャランボの大木も珍らしい。天然記念物に指定される様な名木や古木は、殆んど里近くにあつて孤立したものが多い。自然林の中には稀であつて、例外は屋久島の屋久杉と秋田杉の天然林など、天然のものには集団をなしている。自然を破壊するのは人間であるが、名木や古木を護り育ててきたのも人間である。

自然環境も天然林もその儘放置すれば年々姿を変えてゆ

町長 六車 孝吉

名木・古木と犬の糞

新春随想



前号より

発行所
津奈木公民館
津北郡津奈木町
電話(代表3111)
編集 編集委員会
印刷所 あすなろ印刷
電話(水俣)35147番



写真は天満宮のナギ

一言

今年のように暖かいおだやかだったお正月も珍らしい。元日には早速、心ばかりの身祝いのあと、家族そろって母の眠る納骨堂と近所の氏神さまへお参りを行った。お祈りすることは例年同じで、昨年一年間の無事を感謝し、これから始まる新しい年の無事息災を心をこめてお願いした。両手を合わせ、また拍手を打ってお参りしたあとのすがすがしい気持は、山の冷気と相まってほんとうに心に安らぎを覚える一時でもあった。

ところで「常識」という言葉が気になるので手許の辞書を開いてみた。一書には「健全な普通一般の理解力、又は道義心」とあり、また一書には「健全なる理解と道義心を持し、時代に適應する思想又は識見を抱くこと」とある。

この中で「時代に適應した云々」となっているのが少々気にかかる。極言すれば常識は時代と共に変わるものらしい。これまで「こんな常識もわからんのか」とよく子供達に言い聞かせていたのだが、子供には子供の、我々とはまた違った「常識」があるのかも知れない。しかし、報恩、感謝、祈りなどについてだけはいつの時代にも変わらない「常識」にしたいものである。(T)

おいさん おばさんありがとう



平国小学校では、学校創意の時間を活かし、児童の勤労生産学習の一環としてサンマイモを植えて約三百キログラム収穫した。その収穫の喜びと

子供達が集め、大人達がうずたか

火がしずまると、それぞれに持ちよった餅を竹にはさまこんでもらい、頬を赤くしながら焼くと、お母さん達が砂糖醤油等を用意して、共に食べる姿は微笑ましい

親と子の、隣人同士の心の交流が生れる

高町内各地域において、それぞれ次の通り行事が行なわれた



各地における親子会の正月行事多催

去る九日(日)竹を集め、大人達がうずたかく積みあげていく

会では、日当、午後三時火が入れられると、もくもくと上がる煙、パンパンとはじける孟宗竹の音、ザアッと天高く突き上がる火柱に、子供達の歓声が上がる

中尾



竹中 染竹
内野 小津奈木
レクリエーション
町中
書き初め
中尾

中国を訪問して

平国小 池田郁雄

「百聞は一見にしかず」と諺にあるとおり中国を訪問して、新たな認識を深めたことは私にとって有意義であり、この欄を借りて紹介したい。

中国の広大さには目を見はるばかりで、野原と耕地が遠々と続き、その中で水牛による農作業やサトウキビ、

「百聞は一見にしかず」と諺にあるとおり中国を訪問して、新たな認識を深めたことは私にとって有意義であり、この欄を借りて紹介したい。

中国の広大さには目を見はるばかりで、野原と耕地が遠々と続き、その中で水牛による農作業やサトウキビ、



きれいな景色に驚かされた。きちんと整備された道路の両側はアーモンド、ユーカリなどの街路樹が、整然と植樹されしかも、四季おりおり花が咲き乱れ、町行く人々を楽しませてくれるように計画がなされていた。

この街路樹がどこまで続くのか興味をもって観察していたが、遠々と続く道路から街路樹が消え去ることがなかったのは、さらに驚かされた。森の都熊本よりなお一層きれいだったかも知れない。(次号は教育について)



去る十六日干拓提防で、第七回新春タコあげ大会が二〇余名の親子が参加して開催された。

当日は雲一つない絶好の天候となり、心配された風も競技開始の十時半には待っていただけに吹き出し、六十九個のタコが一斉に舞いあがった。

今年は前年よりも参加者が多く、自作のタコにそれぞれ工夫がなされ、イノシシやパンダなどの絵を書いた者、小さなタコをつなぎ、連タコにした者などが注目された。

大会は正午終了、高飛び賞、アイデア賞、ファミリー賞、珍風賞、努力賞など数多くの賞があり、参加者はそれぞれの賞をもらって帰っていった。



タコ大空に乱舞

親と子の競演

成人の日に新たな誓い

新春の三日、代表して謝辞を述べ式典を終り、町農業就業改善センターで、成人者八十六名、町民代表者百十七名の参加を得て、午前九時半から成人式典が、津奈木公民館で開かれた。六車町長挨拶のあと、記念品贈呈、来賓祝辞等があり、白坂憲章の「歌と踊りの集い」(希望への集い)と次々に展開され、四時終了予定を三十分オーバーした。

成人式を迎えて

内野 山川京子

私は、成人式を津奈木で迎えるとは、高校の頃は思っていませんでした。高校まで菊地の方に住んでいましたので、菊地の方で成人式をするんだとばかり思っていました。津奈木に来て思った事は、行事が多いということです。特にスポーツが多いみたいです。それと成人式に出席して感じた事です、現住所が、県外にしている人が多いです。

私には、成人式を迎えた喜びはありませんでした。でもこれからは、選挙の事がより一層身近な事になってきました。私もこれからは、少しでも多く社会の事を見て行かなくてはと思っています。選挙で選ぶ人といえは、やはり住み良い社会を作ってくれる人ではないでしょうか。しかし、だからといってその人達だけにまかせておく事はできないと思います。自分達の地域は自分達の力で、良い地域作りをしていく必要があると思います。今、津奈木では、都会に出て行く若い人が多くいます。私みたいに高校を卒業して、こちらに帰って来るような人はいないみたいです。これから先も、まだまだ都会に出て行く若い人が多ければ、今、盛んに行われている行事も、だんだん無くなっていくのではないのでしょうか。私は、青年団に入っています。これから先、津奈木に残っている若い人達と手を取り合って、より良い津奈木町にするために頑張りたいと思います。



私の好きな言葉「努力」

大 泊 新立芳郎

早いもので、昭和三十七年に生まれてもう二十年がすぎました。過去を振り返って見ると、楽しかった事、苦しかった事など色々ありますが、昭和四十四年に胸をときめかせて小学校へ入学した、木造だった校舎、自由な服装などが、卒業した時は新しい校舎、制服、広い運動場、体育館などすべてが変ってしまいました。昭和五十年に津奈木中学校から津奈木中学校へ校名が変更された年に入学、この時初めて今年成人式を迎えた皆と会った。今と違って体も小さかった、かわいかったのではありません。陸上競技に初めて出たことができた、今の私にその影響をおぼえている。まず忍耐力が身に付いた。礼儀も教えられた。体力もついていた。それに努力をしたらほとんどのことが成功するということを知った。だから「努力」という言葉がとても好きであるし「努力にまっさらな天才なし」これも良いことわざだ。

そして五十三年、今までの生活で素晴らしいと思う高校生活が始まった、始めは少し不安であったが、すぐ多くの友達ができ、そんなものはふつとんでしまった。本当に色々な事が多かった、先輩からあいさつが悪いと叱りつけられたり、授業中に寝ていたり、紙飛行機を飛ばしたり、校長先生から怒られたりもした。部活動も初めは記録が伸びない、練習について行くのがやっとだった。練習に体がなれてくると記録もトントんと伸び時々壁があり、苦しかったが順調に卒業するまで伸びていった。

進路もこれからの人生の決定と言ってもいいかな、それも大学へ行かなかった私は、どこへ行こうかと迷ったけれども、一応公務員で決定してしまっただけで、今も迷っています。

昭和五十六年四月一日付けで八代社会保険事務所に就職、社会保険事務所は何をする所か知らなかったし名前も聞いたこともなかった、そして一週間、東京での研修で社会保険についてほんのちよっとだけ教わっただけで何をやるかは、はつきりしませんでした。



伝、総体、南九州大会、九州選手権など他にもたくさんあった。思い出は高三の時に、総体で二位に入賞、南九州大会で二位まで決勝へ行けたのだが、三位で残念な結果になった。三位で残念な結果になったのは、責任を持たなくてはならない、また、私は人に愛され、心の広い決断力のある人になって行きたい。そしてまだ長い人生を、これまで学んできたこと、これから学んでゆくことを生かして、高校時代に八位、一歩一歩心おきなく進んで行入賞だ。あの時ほど感激した。

津奈木の芸術

陶芸の部 竹中 藤本兵五



陶芸を始めて一年半粘土の味もわからねえのに津奈木の芸術欄にとどめて、考えてみますと芸術(陶芸)の奥の深さを思う時まだ日も浅く恥ずかしいことですが今まで

進水式 (二)

それから、東西南北の四角のこはくのもちが庭に投げられます。おもちの中にはまた陸の神々といえんがあるようにという船玉さまの願いとお別れがこめられていて、五円玉や五十円玉が二、三枚重ねて入れているので、子供たちはききとてひろいあうのです。そのあと、お酒のタルのせんがあげられ、酒が船台にそそがれます。準備がととの

童話

佐々木しずえ作

一度ドシッとつぶる波に沈んで波のひまを上げて浮き上がるのです。いっせいにひるひるの飛び回ってたくさんのもちをひろって胸にいっぱい抱いている子、手や足を踏まれていると泣く子、も

名木紹介 (梅)

場所 竹中 幹園 二畝九畝
樹高 約七尺 樹令 二百年推定
所有者 長浜 学氏



肥後狂句

堀双岳選

がまだし者、朝めし前にひとしつ間違うた、今日の試験を見込みなしがまだし者、盆正月も知らん間違うた、だんこの餅の辛ア二つがまだし者、その甲斐あつて楽隠居間違うた、この道ア何処エ行くとかいがまだし者、景氣不景氣無関心間違うた、出席したとは俺一人がまだし者、見込で貰うた嫁だもん間違うた、側でベチャクチャ言うな次題・又かい・御立派・一題二句
二月二十日・公民館へ

短歌 小嶋正弘選

一日父親行事に寄せて
今日ひと日父の父親たのもしく
阿蘇の山なみ子等待つこと
すき穂のゆるる阿蘇路を子等はみな
童あかるくバスは行くなり
わが好きな書画の掛軸居間にかけ、
ながめたのしむ朝な夕なに
離れ住む子に近況のふみ書きて
もみじのおし葉ひと葉そえたり
いのしし畑を荒らす身をかくせ、
せめて来るとし汝が歳なれば
ホトトギスと言う名の花をわれ見たり
生花教室の夕に集いて
玄関のつばに活けたる梅もどき
こぼれる如く微笑みであり
片ずけて物置広く見ゆるなり
たつきの腰のつもる年の瀬
ゆく年の名残とも見つややみに
浄火ひたすら塵焼くけむり

片桐 真代

鳥居 保

福田 辰義

白浜美和子

小嶋 正弘

俳句

早咲きの梅一輪雨にゆれ
朝まだき虚空短くもすの声
貧もなし富もなし一雪雪の原

片桐 真代
鳥居 保

熱戦健闘

第33回熊日三太郎 駅伝大会



山また山を越えての難所である新春恒例の第三十三回熊日三太郎駅伝大会が、去る一月九日開催された。大会は、午前十時、田浦町改善センター前を号砲の合図で一斉にスタート。旧国道三号線佐敷太郎を越え、芦北から湯浦の旧国道を抜け、そして津奈木峠を越えて湯ノ見海岸道路から水俣市役所に至る三十九キロコースに一般・高校(五区間)中学生(九区間)オープン参加を含めた二十四チームが、健闘を競い合った。

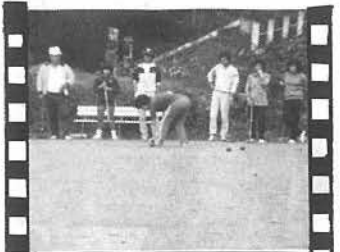
歳時記

レウスでは、一区の新立芳郎選手が、快走のペースで水俣に大差をつけトップで引き続き、二区川野又男選手、三区吉野泰市選手が大健闘した。四区福田必選手は、津奈木太朗選手に付近水俣と懸命の力走を行った。又最終ランナー宮崎弘行選手も、水俣Aチームを追い上げるため、後半懸命の力走を続けた。又、Bチーム(藤原・松田・林・浜辺選手)も健闘した。なお、一般の部は、おしくも単独一位の座は逃がしたが、昨年(区間賞)に引き続き、水俣市について準優勝という輝かしい成績を収めた。また、中学生チームも健闘し四位の成績を収めた。最後に、応援して下さった町民の皆様には心から感謝致します。結果は次のとおり。

◎一般の部 ◎中学生の部
一位 水俣市 二見中
二位 津奈木 水俣二中
三位 芦北 吉尾中
(区間賞)
一区 新立芳郎(38分11秒)

ふれあいスポーツ

例年町内の各地区では地区民の親睦と交流を深めるために色々な催しが計画され実施された。その中でも毎年開催している地区を紹介する。



元日は、新春内野駅伝大会。新春内野ゲートボール大会。が古川、新川地区同様隣保班対抗ゲームとして行われた。内野駅伝11区間中では、背おひ玉入れや二人三脚が有り帰省者も混じり楽しく盛況に終了した。

同じ日古中尾や中尾でも、親子会による駅伝競走が行なわれた。又上下門では、地域ぐるみのゲートボール大会が行なわれ終日に終わった。

コースは千拓一周の三、五キロコースと湯之見京泊折返しの十キロコースで行われ、肌寒さを感じさせるコンディションのなかで海洋センター前を午前十時、谷口教育長のピストルの合図でスタート。参加者は沿道の人達の声援を受けてマイペースで、また元気がいっぱい走り、さわやかな汗を流した。

閉会式はB&G体育館で行われ、各種目の一位から三位まで賞状とトロフィーが、また参加者全員に記録証と参加賞が授与されました。なお結果は次

去る十二月十二日(日)町民の体力つくりと健康づくりを目的に行われる恒例の体力つくりマラソン大会が、大会史上最高二百七十七名の参加者でにぎわった。

タイム 十三分〇二秒
二位 豊田英一(津小5)
三位 丸山弘(津小6)
◎小学生男子
一位 福田征也(平小6)
二位 神子あゆみ(平小6)
三位 浜田美恵(平小5)
◎小学生女子
一位 松崎和信(津中2)
二位 西川良二(津中1)
三位 諫山弘幸(津中2)
◎一般男子(中学生以上)
一位 塚本景子(津中1)
二位 田口千里子(津中2)
三位 松田恵子(津中2)
◎一般女子(三十才以上)
一位 吉野泰市(日添)

町教育委員会ではファミリースポーツ推進の一環として母子ビーチボールバレー大会を二月中旬に開催の予定です。地区対抗ゲームとしますの各地区では、早めに練習を行って下さい。また、練習場(体育館)の確保も電話等で早めにお申し込みください。

おしらせ

家族の協力に感謝

(明日の親学級)



仕事と、育児に、追われる毎日が続く。本も読む時間がなかなかとれない。新聞に明日の親学級参加申し込みのチラシが折り込んであり参加してみようかと、うしようかと迷いました。開校の日まで、まいます。講義の終わりの質問の時間には、わからない事、悩み事などの相談も出来て、本当に良かった。本学級の勉強をさせていただきました。あと一回頑張りたいです。あといつまでか、又、働く婦人の為に、このような機会をどうして設けてくださったかと思ひます。その為には、たくさんの方々の参加も、お願いしたいものです。(N.N)

今ほど難しい時はない

穏やかな年明けを迎え、みな様方には、素晴らしい抱負をお持ちになって、新年のスタートを切られたことと思います。年令を重ねる度に、一年が短く感じられ、歳月の味の充実感と、時の流れの速さは反比例するように思え、瞬く間に一年が過ぎてゆき、寂しさと共に、焦りを感じる今日この頃です。

去年六月に始まりました津奈木公民館学級も、残すところ、後一回となりました。少しも、小学生の親にとってプラスになる独自性のある講座としてすべき義務であると。

私は、昼間は家の仕事の手伝いをしているが、夕方からは、子供を預かる。子供は、今度、小学校に入ります。子供は、今度、小学校に入ります。子供は、今度、小学校に入ります。

十一月二十日午後三時二十五分鹿角島空港を、今回の研修地となった沖繩へ、芦北・水俣の研修生二十六名を乗せてひとっ飛び。

さて、今回私達が訪れたのは西原町。那覇市の東に隣接する人口一万七千人の町と、二十日午後五時過ぎ、空港に着いた私達を迎えてくれたのは、二人の仲間と新川社長の主事。午後八時受入れ式が行なわれ、九時より情報交換、西原の青年も芦北水俣の青年も考えていること、悩んでいることは同じだと思つた。

まず、①女子団員が少ない。②文化・学習活動への参加が

かえってこの方が

(青年教室)



私に「人が人間らしく生きるといふことは、社会活動へ参加することだ」と教えてくれたのがこの青年教室でした。仕事だけに打ち込んでいては、幸せに生きたいと願う心の不安は取り払えないもので、そんな時参加した仲間達との出会いが、自分の心を開きやがては社会活動への参加へとつながりました。

仲間達との会話の中で、決まってきたのは解決策。まず出てくるのは解決策。まず出てくるのは解決策。

四日目、本部町にあるB&G沖繩海洋センターを訪ね、所長さんよりセンターの説明を受け、その後施設の見学をさせて頂いた。それから二度と乗ることが出来ないであろう、クルーザーに乗せて頂き、良い思い出となった。

夜は宿舎で班別分散会、研修の反省と今後の問題について話し合った。

今、何が大事か

桜戸 新立啓介

十一月二十日午後三時二十五分鹿角島空港を、今回の研修地となった沖繩へ、芦北・水俣の研修生二十六名を乗せてひとっ飛び。

さて、今回私達が訪れたのは西原町。那覇市の東に隣接する人口一万七千人の町と、二十日午後五時過ぎ、空港に着いた私達を迎えてくれたのは、二人の仲間と新川社長の主事。午後八時受入れ式が行なわれ、九時より情報交換、西原の青年も芦北水俣の青年も考えていること、悩んでいることは同じだと思つた。

まず、①女子団員が少ない。②文化・学習活動への参加が

この研修を終えて、思ったことは、伊勢先生が話された「今、何が大事か。何をやらなければならないのか」ということ。これからは今までのこと、やらねばならないことを実践して見ようと思う。

五日目、本部町より那覇空港へ、午後一時二十五分発全日空で無事帰着。

体力つくりマラソン大会

さわやかな汗、二百七十七名参加

タイム 十二分三十秒
二位 川野又男(中尾)
三位 松田吉猛(日当)
◎十キロの部
◎中学生男子
一位 田口裕二(津中2)
二位 竹本昌広(津中1)
三位 上野光浩(津中2)
◎一般男子
一位 新立芳郎(大泊)
二位 福田必(福浦)
三位 藤原憲一(日添)

以上